

挨拶は何故大切なのかももう一度考えよう



皆さんは毎日の生活の中でどれくらい意識して挨拶をしているでしょうか。登校して学校に入る前に登校指導している先生方や廊下ですれ違う先生方、事務の職員の方、教室に入って友達に「おはようございます」休み時間に廊下ですれ違う外部のお客さん、先生方、先輩や後輩に「こんにちは」帰るときの「さようなら」これは一見当たり前のことのように思えるかもしれませんが、しかし、挨拶は単なる形式ではなく、人と人との関係をよりよくする大切な行いなのです。

まず、挨拶は相手の存在を認めることから始まります。誰かに声をかけるということは、「あなたがそこにいることに気づいています」「大切に思っています」という気持ちを伝えることでもあります。反対に、黙ってすれ違うと、相手は「無視されたのではないか」と感じる場合があります。たった一言でも挨拶するかしないかで、人間関係の印象は大きく変わります。



次に、「挨拶は気持ちを前向きにする力があります」朝、元気よく「おはよう」と言うと、自分の気持ちも明るくなり、相手も自然と笑顔になります。これは部活動や授業の雰囲気づくりにもつながります。チームやクラスの仲間が互いに気持ちよく挨拶できる関係であれば、活動そのものが円滑に進みやすくなるのです。

さらに、「挨拶は社会に出てからも欠かせないものです」アルバイトや将来の仕事の場面でも、まずは挨拶から関係が始まります。どんなに「優れた能力」があっても、挨拶ができない人は「信頼を得にくい」ものです。逆に挨拶ができる人は「感じのよい人だ」と思われ、人間関係を築く上で、大きな強みになります。



「挨拶ぐらいしなくてもいい」と考える人もいるかもしれませんが、確かに、挨拶をしなくても一日は過ぎていきます。しかし、挨拶があることで、人と人とのつながりは温かく、より豊かなものになります。例えば、朝の一言で相手の気持ちを和ませたり、自分自身が前向きな気持ちになれたりします。そうした小さな積み重ねが、学校生活をよりよいものにしていくのです。

だからこそ、皆さんには、ぜひ「自分から進んで挨拶をする」習慣を身につけてほしいと思います。「挨拶が一番簡単にできる思いやりの行動」であり、「人と人をつなぐ扉」です。今日からでも、まずは先生方や事務職員、外部の来校者、地域の方々、そして身近な友達に「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」と声をかけてみましょう。その一言が、きっとあなた自身の一日を変えてくれると思います。

明るく笑顔で元気な挨拶ができる穴高生になってください。